



薬用作物の実需者ニーズと 国内栽培に向けて

令和3年度 薬用作物産地支援栽培技術研修会

薬用作物産地支援協議会

日本漢方生薬製剤協会 生薬委員会 生薬国内生産検討班

漢方薬とは？

需要は？

漢方医学の流れ



- ・「漢方医学」は、中国起源の医学を基に、日本で独自の発展を遂げた伝統医学。
- ・中医学、韓医学は、起源は同じだが、異なった医学体系を形成している。
- ・江戸中期に伝来したオランダ医学を「蘭方」と呼んだのに対して、従来の日本の伝統医学を「漢方」と呼ぶようになった。

3

薬用作物産地支援協議会

漢方薬の原料となる生薬

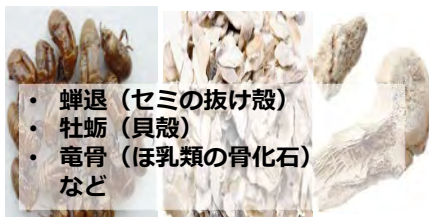
植物の花、葉、茎、根



樹木の樹皮、果皮



動物由来資源



鉱物由来資源



4

薬用作物産地支援協議会

漢方・生薬製剤の一例

医療用医薬品

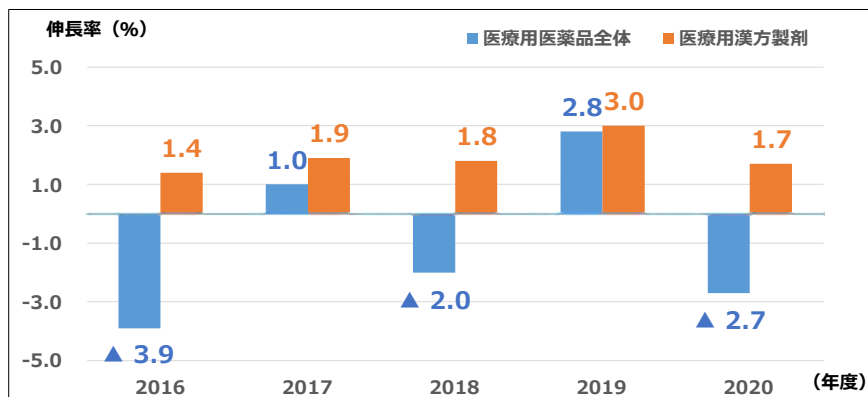
OTC 医薬品



5

薬用作物産地支援協議会

国内医療用医薬品市場と漢方市場の推移（売上ベース）

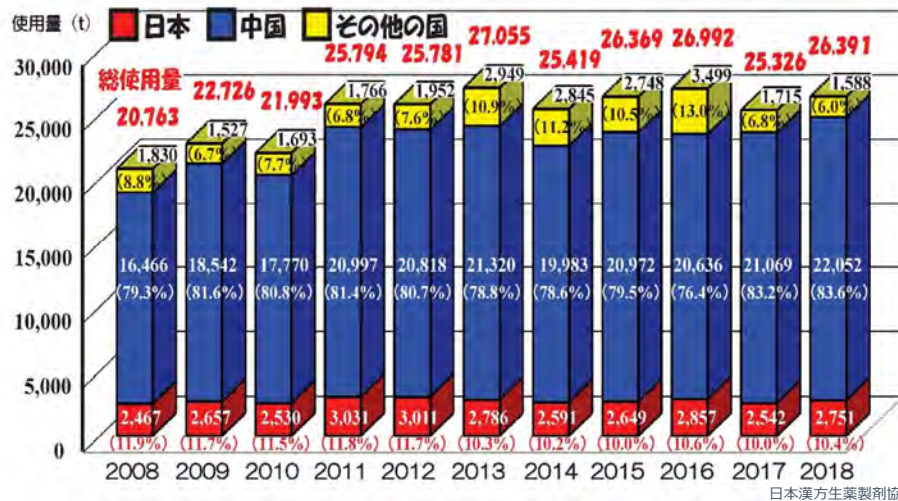


市場規模 (億円)	104,308	105,393	103,293	106,294	103,476
漢方シェア (%)	1.4	1.4	1.5	1.5	1.6

Copyright © 2021 IQVIA. 「JPM 2016年4月～2021年3月」をもとに独自に集計 無断転載禁止 6

薬用作物産地支援協議会

原料生薬の使用量と生産国（2008-2018年度）



7

薬用作物産地支援協議会

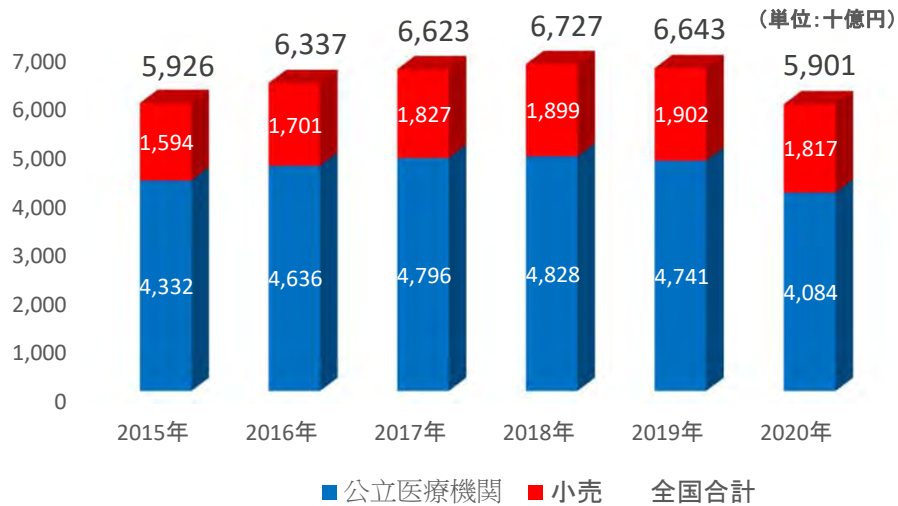
2018年度 国内使用量上位20品目

		(kg)			
		総使用量	日本	中国	他国
1	カンゾウ	1,758,931	0	1,708,600	50,331
2	シャクヤク	1,623,256	25,055	1,598,201	0
3	ブクリョウ	1,586,653	0	1,586,174	479
4	ケイヒ	1,176,074	0	1,053,203	122,871
5	ソウジュツ	1,005,560	0	1,005,560	0
6	ゴウイ	974,601	974,601	0	0
7	ハンゲ	928,539	0	928,539	0
8	タイソウ	883,102	0	883,102	0
9	トウキ	864,454	176,113	688,341	0
10	センナジュツ	802,488	0	0	802,488
11	ニンジン	746,550	1,407	744,971	173
12	マオウ	672,336	0	672,336	0
13	サイコ	608,377	18,870	588,485	1,022
14	センキュウ	580,611	442,089	138,522	0
15	カッコン	548,804	0	546,024	2,780
16	ヨクイニン	538,918	17	404,501	134,399
17	タクシャ	534,468	0	534,468	0
18	ビャクジュツ	427,841	0	427,841	0
19	ショウキョウ	426,289	27	426,262	0
20	ジオウ	419,863	2,724	416,949	190

8

薬用作物産地支援協議会

中成薬売上推移（2015-2020年）



参考：1人民元=17円

出典：広州標点医薬情報股份有限公司 9

薬用作物産地支援協議会

生薬の品質を安定化するために・・・ 品質規格について



厚生労働省 「日本薬局方」

生薬の基原種 性状（外部および内部形態・色・味・臭い） 確認試験 純度試験 乾燥減量 灰分
酸不溶性灰分 エキス含量 成分など規定
※5年に1度改正

+

「各社自社基準・規格」

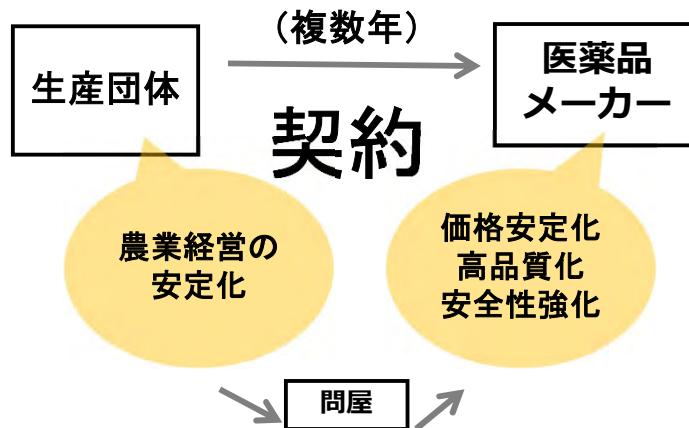
日本薬局方で規定していないその他の品質管理項目を含む、各社独自の品質規格
★基原種の限定 ★管理指標成分 ★残留農薬 ★微生物 ★重金属 など

10

薬用作物産地支援協議会

日本における生薬流通について

- ・日本国内には市場がない
- ・生産者と医薬品メーカーとの間で複数年の契約を結ぶことが多い



11

薬用作物産地支援協議会

国内での薬用作物生産拡大の意義

医薬品メーカー：
需要量の増加に対する原料調達リスクの軽減および国内自給率の向上
これまでの生産者様と取引関係を維持継続

農林水産省：
国内の耕作放棄地、中山間地の活用による日本の農業活動の活性化

厚生労働省：
薬用作物・生薬調達先の複線化の推進による医薬品の安定供給



国内での薬用作物生産拡大継続は
必要不可欠 ¹²

薬用作物産地支援協議会

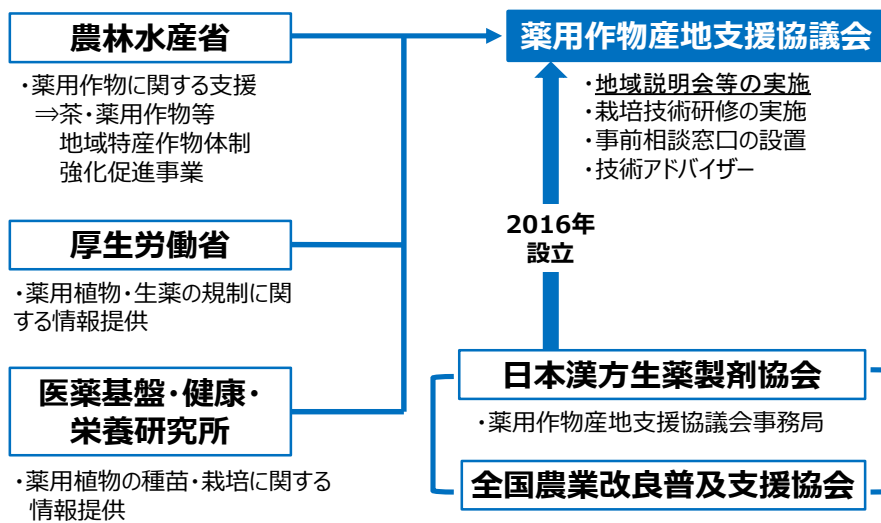
薬用作物生産拡大の取組経緯

	公的研究機関	行政		日漢協	普及協会
		厚労省	農水省		
2012		情報共有・意見交換			
2013	基盤研	ブロック会議			
2014					
2015					
2016	健康研 健康研 農研機構	医政局 経済課	農産局 果樹・茶 グループ	薬産協	
2017					
2018					
2019					
2020					
2021					

13

薬用作物産地支援協議会

茶・薬用作物等地域特産作物体制強化促進事業のスキーム



14

薬用作物産地支援協議会

マッチング概況・国内の薬用作物調達量

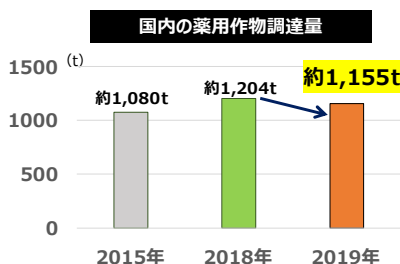
8年間のマッチング概況

2021年3月31日時点 日漢協調べ(2021)

年度⇒	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	合計
折衝開始	45	36	15	12	8	1	2	5	124
折衝成立	19	11	5	1	4	1	2	0	43
取引成立	2	2	0	1	2	0	2	0	9
成立年	2015~ 2018~	2019~ 2019~	-	2017~	2018~ 2018~	-	2019~ 2019~	-	

↑「売ります」情報
(生産者発信)

「買います」情報 →
(実需者発信)



日漢協調べ(2021)

年度⇒	2020	合計
折衝開始	2	2
折衝成立	1	1
取引成立	0	0
成立年	-	

※折衝開始 交渉開始した件数。
 ※折衝成立 交渉が成立し、試作を開始した件数。
 ※取引成立 医薬品メーカーと契約を締結した件数。
 ※取引成立年 医薬品メーカーと契約を締結した年ごとの件数。

15

薬用作物産地支援協議会

折衝および取引の成立・不成立要因まとめ

要因	不成立	成立
価格	不採算(買取価格が安い)	中国産との価格差の少ない品目を選択
	支払い条件(早期の現金収入が必要)	
技術	技術不足 ⇒適切な栽培指導不足から 継続不能	小規模試作から開始 ⇒着実な成果をアピールして生産者を増やす
	栽培適地の選択ミス	各地の過去の栽培事例を重視
規格	生産してみたが、規格不適合となり損失⇒継続不能	小規模試作を実施し、品質を確認した後拡大
規模	個人では大規模対応不可	段階的にグループ化(拡大)を実施

16

薬用作物産地支援協議会

生産拡大にあたり、

生産者様 / 生産団体様に留意いただきたいポイント

1. 個人ではなく、グループで取り組む
2. グループリーダーの熱意は不可欠
3. 主品目ではなく輪作体系に取り込む
4. 地域行政、研究機関との連携を密に
5. 短期間ではなく長期的視点で計画

17

薬用作物産地支援協議会

外部要因として生産拡大に必要な要素

1. 経済性	2. 省力化	3. 社会的意義
①反収向上	①農薬登録	①生命基幹産業への貢献
②買取価格	②機械化	
③買取先拡充	③加工技術開発	

18

薬用作物産地支援協議会

1.-①反収向上
2.-②機械化 / 2.-③加工技術開発に向けた取組み

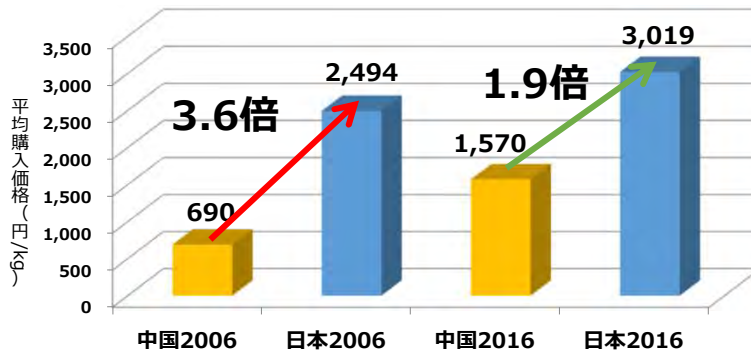


19

1.-②買取価格関する取組み

依然として価格優位性は中国産にあるものの、
上昇速度の違いから、価格差は縮小傾向にある

中国産と日本産の生薬購入価格



調査票より、2006年度と2016年度の両方で日中いずれにも取引実績のある品目について抜粋し集計、単純平均値

2017年 日漢協 調査 20

薬用作物産地支援協議会

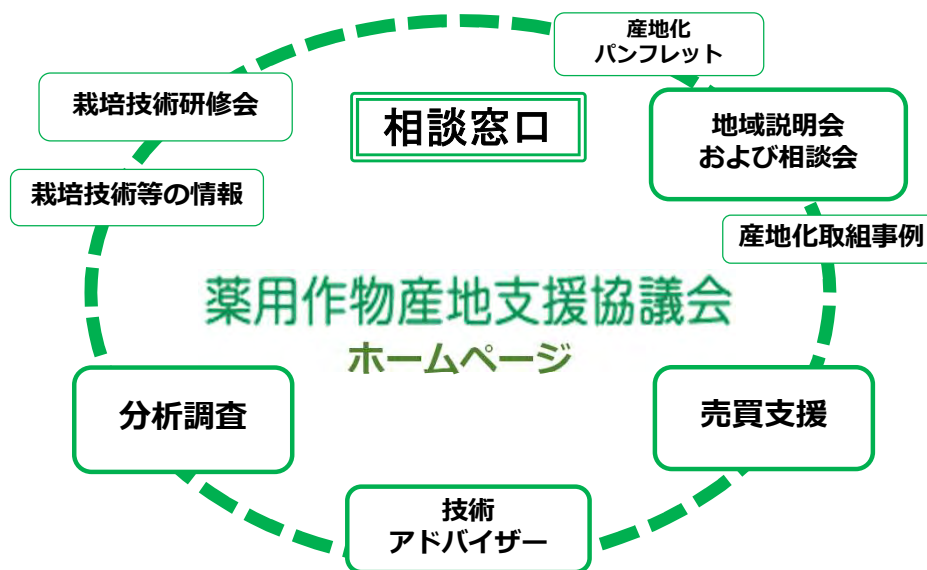
その他の要素に関する取り組み

- 1.-③買取先拡充⇒化粧品・健康食品
- 2.-①農薬登録⇒医薬品メーカーと都道府県との連携
⇒委託プロジェクトによる病害の解明
- 3.-①社会的意義⇒地域説明会での講演

21

薬用作物産地支援協議会

薬用作物に関する情報を集めたホームページ



22

薬用作物産地支援協議会

相談窓口

産地化を希望する生産者等からの相談・質問に対応する。
お問い合わせフォームのほか、メール、電話、FAXにて対応可。

[お問い合わせ](#) [よくあるご質問](#) [アクセス](#)
 相談窓口 ☎ 03-6264-8087
[お問い合わせフォームをご利用ください](#)

薬用作物産地支援協議会
[ホーム](#) | [組織概要](#) | [イベント情報](#) | [産地化事例](#) | [売買取援](#) | [技術アドバイザー](#) | [分析調査](#) | [調べる](#)

ホーム >> お問い合わせ

生薬（薬用作物）の取り組み等に関するご相談

お問い合わせフォーム

よくあるご質問

薬用作物関係機関 連絡先

E-mail又はFAXでも受け付けています

03-6284-2534

✉ soudan@yakusankyo-n.org

用紙のダウンロード

Excel形式 PDF形式

現在、当協議会では新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、交代で在宅勤務（リモートワーク）を実施しています。
お問い合わせ等につきましては、可能な限り【お問い合わせフォーム】をご利用くださいますよう、お願いいたします。

生薬（薬用作物）の取り組み等に関するご相談は、お問い合わせフォームから必要事項を入力し、送信してください。
 ・TEL (03-6264-8087) ・FAX (03-6284-2534)
 こちらの お問い合わせも受付しております。
 FAXの場合は、用紙をダウンロードの上お問い合わせ項目をご記入いただき、送信してください。

- ・お返事を差し上げるまでにお時間がかかる場合があります。
- ・お問い合わせの内容によってはお答えできない場合もありますことをご承知願います。
- ・個人情報は日漢協プライバシーポリシーに従い適切に管理いたします。

現在、多数のお問い合わせを頂戴しております。
ご相談には優先対応しておりますが、ご返信を差し上げるまでに若干のお時間を頂戴しております。何卒ご了承のほど、宜しくお願い申し上げます。

連絡先：薬用作物産地支援協議会 日漢協事務局
 担当 藤田
 Tel : 03-6264-8087
 Email: soudan@yakusankyo-n.org

産地化パンフレット

対象： 新規に薬用作物を取り組むことを検討している生産者。

内容： 薬用作物に取り組む上での、注意すべき点や情報収集の方法について一般的な流れを紹介する。

これから始める！
薬用作物の栽培ガイド

- 1. 薬用作物に取り組むには？
- 2. 薬用作物を栽培する注意と対応策
- 3. 新規で薬用作物栽培のSTEP
- 4. 薬用作物のあるあるQ&A

1 なぜ薬用作物に取り組むといいのか？

薬用作物栽培のメリットは、収入の安定性、環境への配慮、地域活性化などです。

また、健康志向の高まりや、食生活の変化により、薬用作物の需要が増えています。

家庭への収入源になるほか、地域活性化などの効果も期待されています。

3 新規で薬用作物を始める

生産者として取り組むには、まずは市場調査や、栽培技術の習得が重要です。

また、地域との連携や、販路の開拓も重要なポイントです。

4 薬用作物のあるある

生産者としての課題や、販路の開拓方法などについて、具体的な事例やノウハウを解説しています。

地域説明会および相談会

産地化を目指す地域(関係者)と実需者との情報の交換・共有を図るための説明会



令和3年度 薬用作物の産地化に向けた地域説明会および相談会

開催日程及び開催場所等 (記号欄料は後日公開します)

開催時期	日時	会場	申し込みフォーム
第1回 (東京部) オンライン併用	2021年9月23日(木) 13:30~16:30	APF東京/東京 (7期) 42004 P (東京部/北海道/山形/秋田/岩手/宮城/福島) オンライン併用の詳細情報は申込受付後に案内	申込受付 オンライン申込み
第2回 (北海道) オンライン併用	2021年10月29日(木) 13:30~17:00	AGC 札幌/札幌 (12期) 41206 P (北海道/山形/秋田/岩手/宮城/福島) オンライン併用の詳細情報は申込受付後に案内	申込受付 オンライン申込み
第3回 (関東部) オンライン併用	2021年11月11日(木) 13:30~17:00	APF東京/東京 (7期) 42004 P (関東部/山形/秋田/岩手/宮城/福島) オンライン併用の詳細情報は申込受付後に案内	申込受付 オンライン申込み
第4回 (中部部) オンライン併用	2021年11月22日(木) 13:30~17:00	エムカーニバル 7期 中ホール (中部部/山形/秋田/岩手/宮城/福島) オンライン併用の詳細情報は申込受付後に案内	申込受付 オンライン申込み

*各回場は第2回~第4回の「会場案内」の欄を参照し、申し込み可能です。

- 第1回 ・薬用作物の産地化までの道のり【日本漢方生薬製剤協会】
 ・薬用作物を対象とした補助事業等について【農林水産省】
 ・薬用作物に係る規制(薬局方、薬価、食薬区分)について【厚生労働省】
 ・薬用植物の研究及び種子・種苗について
 【国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター】
 ・農業・食品産業技術総合研究機構の5年間の取組成果報告【農業・食品産業技術総合研究機構】
 ・漢方薬の治療実例の紹介
 ・質疑応答
- 第2~4回
 ・各地の生産団体の取組紹介
 ・生産団体および実需者によるパネルディスカッション
 ・質疑応答

産地化取組事例

実際に産地化に成功している、または成功に向けて取り組んでいる生産団体の様子・経緯を事例紹介としてまとめている。



お問い合わせ | よくあるご質問 | アクセス

相談窓口 ☎ 03-6264-8087
お問い合せフォームをご覧ください

ホーム | 組織概要 | イベント情報 | 産地化事例 | 販売支援 | 技術アドバイザー | 分析調査 | 調べる

ホーム >> 産地化事例

産地化取組事例紹介

過去の地域説明会におきまして、薬用作物の産地化に取り組まれている生産団体の事例を知りたい、との要望が多く寄せられました。平成30年度よりその裏にお応えし、地域説明会におきまして各地域での産地化取組事例を紹介しております。その内容を掲載いたします。ぜひご参照ください。

令和2年度 事例紹介	事例名	開催地	開催時期	開催場所	開催内容
令和2年度 事例紹介	カメコン産地化取り組み事例紹介 稲穂屋グループ (北海道)	北海道		アイケイファーム余市/積丹株式会社	事例を見る
	トウモロコシ産地化について 羽後県庄内産地化協議会 産地化委員会 (秋田県)	東北			事例を見る
	株式会社大田産地化の紹介 (東京都)	関東・北陸・北海道			事例を見る
	宇治外産プロジェクト 産地化推進協議会 (京都府)	奈良・中国四国			事例を見る
	生薬生産に特化した取組 株式会社中村高 (福岡県)	九州・沖縄			事例を見る
平成31年度 事例紹介	事例名	開催地	開催時期	開催場所	開催内容
平成31年度 事例紹介	当院薬用植物栽培研究会 ムラサキ (京都) の栽培 (北海道)	北海道			事例を見る
	新庄産地化 秋田県産地化推進協議会 (秋田県)	東北			事例を見る

売買支援

国内において薬用作物には市場が無い。
そこで、医薬品メーカーと生産団体様との売買成立を支援する

お問い合わせ よくある質問 アクセス
相談窓口 ☎ 03-6264-8087
お問い合わせフォームをご利用ください

ホーム | 組織概要 | イベント情報 | 産地化事例 | 売買支援 | 技術アドバイザー | 分析調査 | 調べる

ホーム >> 売買支援

売買支援

薬用作物は「市場」が存在せず、生産者と薬品メーカー（実需者）との間で「全量契約」する場合がございます。そのため本サイトでは実需者と生産団体様の売買支援を行うことを目的とします。

売買支援の流れ

令和3（2021）年度【売ります情報】登録受付中

【売ります情報】
生産者が発信する情報はこちら

- 販売を希望する薬用作物
- 販売を希望する種子株苗

「売ります情報」登録ご希望の生産者様もこちらから

【買います情報】
実需者が発信する情報はこちら

- 購入を希望する薬用作物
- 新規生産地出産を希望する品目と条件

27

薬用作物産地支援協議会

売買支援（買います情報）

医薬品メーカー側の取引希望条件を掲載する。（生薬品目毎）
合致する場合には、生産概況をフォームに記入し、お申込みを。

お問い合わせ よくある質問 アクセス
相談窓口 ☎ 03-6264-8087
お問い合わせフォームをご利用ください

ホーム | 組織概要 | イベント情報 | 産地化事例 | 売買支援 | 技術アドバイザー | 分析調査 | 調べる

ホーム >> 売買支援 >> 買います情報

買います情報

（実需者が発信する情報）

買います情報 (1)
今年度中
ははこちら

買います情報 (2)
【今年度以降】
ははこちら

買います情報 (3)
【新規生産地づくり】
ははこちら

「買います情報」には、（実需者が購入を希望する薬用作物等の情報）を提示しています。
（1）～（3）の区分は以下のとおりです。
買います情報（1）：今年度中（2022年3月まで）に納入可能な薬用作物の購入希望
買います情報（2）：今年度以降（2022年4月以降）に納入可能な薬用作物の購入希望
買います情報（3）：これから新たに生産に取り組みたいとき、将来的に新規の生産地づくりを希望

- 令和3年度は
- (1) 今年度中に納入可能な薬用作物
 - (2) 来年度以降納入可能となる薬用作物
 - (3) 新規生産地づくり
- の3種類で情報掲載中

買います情報 (1) 【今年度】納入希望

登録番号	品目	評価
2110400001	アケビ (モクウ)	情報未入力
2110400002	オウゴン (オウゴン)	情報未入力
2110400003	オウゴン (オウゴン)	情報未入力
2110400004	カニンシク (カニンシク) a	情報未入力
2110500001	カニンシク (カニンシク) b	情報未入力
2110400005	サンショウ (サンショウ)	情報未入力
2110400006	トウモロコシ (トウモロコシ)	情報未入力
2110540001	マツタビの実 (マツタビ)	情報未入力
2110400001	カニンシク (カニンシク)	情報未入力
2110400007	ムササビ (ムササビ)	情報未入力
2110400008	ヨモギ (ヨモギ)	情報未入力

買います情報 (3) 【新規生産地づくり】

登録番号	品目	評価
2130400001	アケビ (モクウ)	情報未入力
2130400002	オウゴン (オウゴン)	情報未入力
2130400003	オウゴン (オウゴン)	情報未入力
2130210001	カニンシク (カニンシク) a	情報未入力
2130400004	カニンシク (カニンシク) b	情報未入力
2130500001	カニンシク (カニンシク) c	情報未入力
2130400005	サンショウ (サンショウ)	情報未入力
2130400006	サンショウ (サンショウ)	情報未入力
2130400007	トウモロコシ (トウモロコシ)	情報未入力
2130400008	トウモロコシ (トウモロコシ)	情報未入力
2130540001	マツタビの実 (マツタビ)	情報未入力
2130400009	ムササビ (ムササビ)	情報未入力
2130400009	ヨモギ (ヨモギ)	情報未入力

28

薬用作物産地支援協議会

売買支援（売ります情報）

生産団体様が販売を希望する生薬・種子種苗の情報を掲載。
 医薬品メーカー側は閲覧し、取引希望の場合には連絡を入れる。
 ※生産団体様は、WEB上でもFAXでも情報登録のお申込みが可能。



ホーム | 各地概要 | イベント情報 | 産地化事例 | 売買支援 | 技術アドバイザー | 分析調査 | 戻る

ホーム >> 売買支援 >> 売ります情報 >> 売ります情報【登録済】一覧

売ります情報（生産物）一覧

（実業向け情報）

ご利用のの流れ（実業者向け）

- 購入を希望する生産者様から「取引を希望する」をクリックしてください。
- 入力フォームに必要事項を入力の上送信してください。
- 事務局では毎月2回（15日と末日）を締め日とし、応募を取りまとめます。
 - 事務局から生産者へ、当該案件の【生産者様の連絡先】をお知らせします。
- 実業者と生産者様間で連絡が成り立っている場合は、ご連絡の旨をお知らせし、ご連絡の旨に連絡がある旨をお知らせします。
- 交渉がまとまった業者には、毎年度末に連絡状況を報告いたします。

納入可能予定日が2022年3月まで（今年度中に納入可能）

登録番号	品名	納入可能予定日	詳細
24-20210823170409	シソツツク	2022年3月	詳細を見る

技術アドバイザー

栽培や加工調製段階におけるお困りごとを解決するために
 専門技術指導者を現地圃に派遣し、アドバイスを行う。
 基本的に無償。売り先（取引先）の紹介は不可。



お問い合わせ | よくあるご質問 | アクセス

相談窓口 ☎ 03-6264-8047
 登録済売買取引フォームもご利用ください

ホーム | 各地概要 | イベント情報 | 産地化事例 | 売買支援 | 技術アドバイザー | 分析調査 | 戻る

ホーム >> 技術アドバイザー

技術アドバイザー

本事業は、現在、医薬品の原料生産となる薬用作物の有理化に取り組みたい生産者団体様に対して、薬用作物の専門技術指導者も派遣して、栽培や加工調製段階におけるお困りごとを解決するためにお手早い（アドバイス）をさせていただきます。

技術アドバイザー派遣の流れ

フォームから連絡 → スケジュール調整 → ご連絡 → アドバイザー派遣

技術アドバイザー派遣申込フォーム

E-mail又はFAXでも受け付けています
 ☎ 03-6284-2534
 ✉ soudan@yokusankyo-n.org
 ① Excel形式 ② PDF形式

技術アドバイザー紹介

注意事項

- 売り先（医薬品メーカー等）の紹介は行いませんのでご了承ください。
- 全ての指導依頼に限り、7日以内で現地へ派遣いたします。

分析調査

生産者様においては、試作生産物が日本薬局方の要件をクリアしているかを確認することができます。

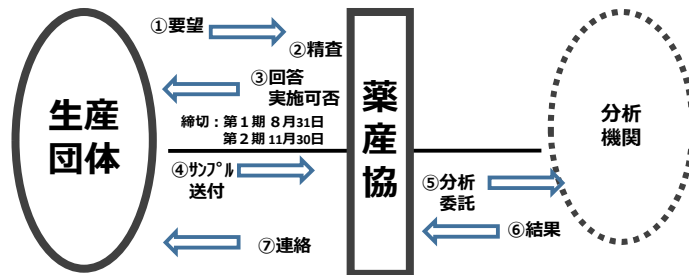
※ご希望を全てお受けできる訳ではございません。

対象品目：漢方・生薬製剤の原料となる、「日本薬局方収載品目」および「局外生薬規格」の範囲。

対象者：法人・農協の部会・農業者で組織する団体等。 ※個人での応募は対象外

当協議会は、試作品がどのような生産物となるのかを調査し、今後の支援対策に活用いたします。

ホームページで応募受付中
 令和3年度 第1期（8月末締切）は 3件の応募あり・うち2件を現在分析中
令和3年度 第2期は、11月30日締め切り！！



31

薬用作物産地支援協議会

情報提供

情報提供

- ・活用できる国の支援策、収入保険制度等
- ・日本薬局方、食薬区分、薬価等
- ・薬用植物資源の確保、栽培技術の確立研究等

薬用作物産地支援

検索

32

薬用作物産地支援協議会

成長戦略実行計画 1

成長戦略実行計画

令和3年6月18日

成長戦略実行計画

(目次)

はじめに	1
第1章 新たな日常に向けた成長戦略の考え方	1
1. 成長と分配の好循環の実現に向けた労働生産性・労働参加率の向上と賃金上昇	1
2. 付加価値の高い新製品・新サービスの創出による日本企業のマークアップ率の向上	1
3. 国民がWell-beingを実感できる社会の実現	2
4. コロナ禍により影響が出ている分野の事業の継続と事業再構築の支援	2
5. 潜在可能性のある分野における積極的な成長戦略の強化	4
第2章 新たな成長の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備	5
1. デジタル庁を中心としたデジタル化の推進	5
※中略	
第13章 重要分野における取組	28
1. ワクチンの国内での開発・生産	28
2. 医薬品産業の成長戦略	28
3. 海洋	29
4. 宇宙	29
5. PPPの推進強化	30
6. 国際金融センターの実現	30
7. 対日直接投資の促進	30
8. 個別分野の制度改革	30

関連事項
掲載項目

33

薬用作物産地支援協議会

成長戦略実行計画 2

「成長戦略実行計画」関連事項抜粋 (令和3年6月18日)

P.29 抜粋

第13章 重要分野における取組

2. 医薬品産業の成長戦略

- 安定確保について特に配慮が必要である医薬品のうち優先度の高いものについては、薬価の設定や原料等の国内での製造支援、備蓄制度、非常時の買上げの導入などを検討する。
- オンライン診療は、かかりつけ医の場合は初診から原則解禁する。
- 薬局で市販されるOTC診断薬等の使用推進については、個別品目ごとにOTC化の検討を進めるなどセルフケア・セルフメディケーションを推進する。
- 医療用医薬品の流通構造には、流通改善ガイドラインの見直しを含めた対応策の検討を行う。
- 漢方について、生薬の国内生産及び国内産業の競争力強化に資する国際標準化を推進する。

34

薬用作物産地支援協議会

成長戦略フォローアップ 1

成長戦略フォローアップ

目次

はじめに	1
1. 新たな成長の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備	1
(1) デジタル庁を中心としたデジタル化の推進	1
i) 国民目線のデジタル・ガバナメントの推進	1
ii) デジタル社会の共通基盤の整備	2
iii) 自治的データ戦略の推進と準公共分野等における共通基盤の整備	3
iv) デジタル人材の育成	3
(2) 5Gの早期全国展開、ポスト5Gの推進、いわゆる6G（ビヨンド5G）の推進	3
※中略	
1.3. 地方創生	111
(1) 観光立国の実現	111
i) 感染拡大防止の徹底、国内需要の回復、観光産業の再生	111
ii) 魅力ある観光地域とコンテンツ造成	112
iii) インバウンド等の段階的復活	113
(2) 農林水産業の成長産業化による活力ある農山漁村の実現	114
i) 輸出促進等「新たなマーケット」の創出	114
① 農林水産物・食品の輸出の促進	114
② 加工・業務用野菜の国産シェアの拡大	116
③ 新事業分野の開拓	116
iv) 農業の生産基盤の強化	117
ii) 地方創生推進の取組	117

令和3年6月18日

関連事項
掲載項目

35

薬用作物産地支援協議会

成長戦略フォローアップ 2

「成長戦略フォローアップ」漢方関連抜粋（令和3年6月18日）

P.117抜粋

1.3. 地方創生

(2) 農林水産業の成長産業化による活力ある農山漁村の実現

i) 輸出促進等「新たなマーケット」の創出

③ 新事業分野の開拓

- ・ 市場規模が拡大している介護食品（スマイルケア食等）、**漢方薬原料の薬用作物**、健康寿命の延伸に資する新たな機能性食品について、健康志向の消費者の視点を重視した、農林水産業・食品産業と医療・福祉が融合した研究等を推進する。また、**研究開発された薬用作物（ジャクヤク等）の生産技術の産地導入を進め、需給情報の共有や契約栽培に向けた生産者と実需者のマッチングを推進する。**

36

薬用作物産地支援協議会

漢方の将来ビジョン2040 日本漢方生薬製剤協会

漢方の将来ビジョン2040

- さらなるエビデンス集積と有用性の確立
- 原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大
- 原料生薬から最終製剤までの品質管理の高度化と製品品質保証の体制強化および医療用漢方製剤等の安定供給
- ガイドライン策定に向けた医療用漢方製剤の新剤形開発・効能拡大に関する研究の推進
- 一般用漢方製剤および生薬製剤の開発推進と情報提供体制の強化
- コンプライアンス遵守の体制強化と信頼性向上
- 自然環境の保全・生薬資源の保護など地球環境や生物多様性へ配慮した事業活動の推進と漢方製剤等の国際展開の推進
- 産官学連携強化とアウトリーチ活動の充実

37

薬用作物産地支援協議会

ビジョン1		さらなるエビデンス集積と有用性の確立				原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大					
確立を目指す目標		2021	2025	2030	2040	確立を目指す目標		2021	2025	2030	2040
<p>10年後のあるべき姿</p> <p>●漢方製剤等の科学的有用性の確立と臨床エビデンスの集積により、医療ニーズの高い治療領域に対応する漢方製剤等の供給が、医師が診療する際の重要な判断材料となる</p> <p>●漢方製剤等の科学的有用性の確立と臨床エビデンスの集積により、医療ニーズの高い治療領域に対応する漢方製剤等の供給が、医師が診療する際の重要な判断材料となる</p>	<p>2021</p> <p>●エビデンスの集積 ▶ 漢方製剤の科学的有用性の確立と臨床エビデンスの集積により、医療ニーズの高い治療領域に対応する漢方製剤等の供給が、医師が診療する際の重要な判断材料となる</p>	<p>2025</p> <p>●エビデンスの集積 ▶ 漢方製剤の科学的有用性の確立と臨床エビデンスの集積により、医療ニーズの高い治療領域に対応する漢方製剤等の供給が、医師が診療する際の重要な判断材料となる</p>	<p>2030</p> <p>●エビデンスの集積 ▶ 漢方製剤の科学的有用性の確立と臨床エビデンスの集積により、医療ニーズの高い治療領域に対応する漢方製剤等の供給が、医師が診療する際の重要な判断材料となる</p>	<p>2040</p> <p>●エビデンスの集積 ▶ 漢方製剤の科学的有用性の確立と臨床エビデンスの集積により、医療ニーズの高い治療領域に対応する漢方製剤等の供給が、医師が診療する際の重要な判断材料となる</p>	<p>10年後のあるべき姿</p> <p>●原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大</p> <p>●原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大</p>	<p>2021</p> <p>●原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大 ▶ 原料生薬の安定供給と国産生薬生産量の拡大</p>	<p>2025</p> <p>●原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大 ▶ 原料生薬の安定供給と国産生薬生産量の拡大</p>	<p>2030</p> <p>●原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大 ▶ 原料生薬の安定供給と国産生薬生産量の拡大</p>	<p>2040</p> <p>●原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大 ▶ 原料生薬の安定供給と国産生薬生産量の拡大</p>		

38

薬用作物産地支援協議会

ご清聴ありがとうございました